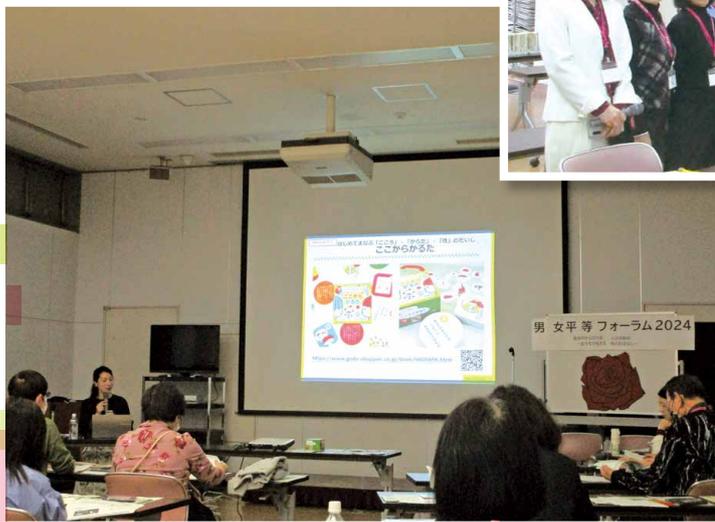


目黒区男女平等フォーラム 2024



▲フォーラムを運営した目黒区男女平等・共同参画センター運営委員(第16期)のメンバー



▲講演会

日時、会場	令和6年11月16日(土曜日) 14:00～16:00 中目黒スクエア2階
講演テーマ	自分のからだの主人公は自分 ～おうちで伝える性のおはなし～
講師	特定非営利活動法人ピルコン理事長 染矢 明日香氏

今年度の男女平等・共同参画センター運営委員会は、「自分のからだの主人公は自分」をテーマに行政と共催し計3回の講座を開催しました。第一回は水野哲夫さんによる「リプロダクティブ・ヘルス&ライツつてなめに」、第二回はアルティシアさんによる「#アクティブバイスタンダー」を、そして今回の「おうちで伝える性のおはなし」(講師:染矢明日香(そめやあすか)さん)はその集大成となる講座となりました。

講演開始に先立ち、青木区長から、リプロダクティブ・ヘルス&ライツは目黒区が推進しているテーマであり、本日はしっかりと講座を聞いてほしい、と力強い後押しをいただきました。

「皆さんは、どんな性教育を受けてきましたか?」という質問から講座は始まりました。性教育の昔と今、国際スタンダードと日本との比較など、映写を用いながら分かりやすく説明いただき、性教育は人権教育であり、幼い時から学ぶ大切さを学びました。

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツは「性と生殖に関する健康と権利」と訳され、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態(well-being)であり、自分の体に関することを、自分自身で決められる権利としています。教育を受けなければ

その判断も難しく、また性教育は一度きりで終わりではなく、生活の中でさまざまなテーマで繰り返し行うことの大切さも学びました。

質疑応答の時間では多くの質問があり、参加者の関心の高さを感じました。

先進国北欧での性教育の課程やかける時間、なぜ日本の学校では性教育に消極的なのか、日本は自分の考えより全体の雰囲気優先される風潮があるが、「Yes」が良い答えではない(嫌なことは嫌とハッキリ伝えることが大切)と、なるほどと感じる回答もありました。

また、海外に比べて日本は緊急避妊薬が手に入りやすく高価である等の違いも、分かりやすく教えていただきました。女性に限らず、すべての人が自分のからだの主人公になるため、改善されるべきことが見えてきました。

今日学んだことを、子どものみならず周りの大人にも広めていくことの大切さを再認識するとともに、誰もが気軽に語り合えるようになることを願った講座でした。

あなたは、子どもから「赤ちゃんはどこから来るの?」と聞かれたら、どう答えますか?..

